

## ウォーキング雑感（その6）



（一社）日本機械土工協会  
常務理事 保坂 益男

### 借金コンクリート造り

東京芸大をすぎてすぐの所に、一般社団法人日本建設躯体工事業団体連合会（日本躯体）の専務理事を務めた藤澤氏の住居があります。タバコの好きな御仁で「死んでもタバコはやめない」、とタバコにこだわり最後までそれを実行した人でした。内蔵をガンに侵され、それが次々と転移し、医者に対し「悪いところは遠慮なく取ってくれ。」といい、計5回にわたって手術をしましたが、惜しいことに亡くなってしまいました。当協会山崎元会長は、専門工事に係わる全国規模の約40団体を組織化して、初代（一社）建設産業専門団体連合会・会長を務めました。この連合会の出来る前に母体となった任意法人の建設産業専門団体協議会（建専協）があって、この組織の会長を日本躯体の会長が務めておりました。

当時この建専協の会長職と事務局は周り順で、日本躯体から当協会に移ったため、事務局の引き継ぎなどで専務理事である藤澤氏と親しくつきあうことになった経緯があります。前述のとおり氏の住居は東京芸大から数百メートルのところであり、環境は抜群で親御さんの時代は旅館だったそうです。

その敷地に二階建て鉄筋コンクリート造りのアパートを建設し、一階の一部が住居で、その他は賃貸アパートとしておりました。

カラオケが好きで、上野駅の近くに氏と共通のカラオケスナックがあり、電話を掛ける

と現役時代はもちろん、体を悪くしてからも「入院中」で無い限り駆けつけてくれました。家族からもできるだけ誘ってくれるとありがたいと言われ、調子に乗りずいぶんつきあいました。

タバコをふかしながら、住居兼賃貸アパートを建てるため借金し、月々返しているが、返し終わるまでは「借金コンクリート造り」の住居だと笑っている御仁でもありました。

現役時代には建専協、建専連の運営課題などで、長い事務局経験に基づいた貴重な助言や協力をいただき、また山崎会長が務めた建専連を支えてくれました。

親しくお付き合いをさせていただきましたが、世の中は長生きしてほしい人から先に亡くなるようですね。

※人物余話—当協会は昭和46年に設立され、静岡支部は、地方で「重機屋」が「雨後の筍」のように増えたといわれた昭和48年に設立されました。その設立の第一人者は、現在当協会の理事を務めている梅原氏の父上梅原岩男氏。元々は大きな農家の長男。「重機屋」をやると決めたら、それまで大企業に就職していた弟や妹、兄弟全員を集め会社の社員にしてしまう、超ワンマン。団体の運営関係で思いついたことがあると、早朝5時頃に電話がくる。

すぐ下の弟は当協会で副会長を務めた梅原秀夫氏。「兄は、何かあると朝 3 時でも電話が来、すぐに現場へ走ることが度々ありました。」当時静岡市の中心部が再開発、床堀などは交通規制の関係で深夜からの作業。本人に会おうとすると深夜の現場を探す。「揚げ物」が好きで、深夜営業の店で「揚げ物」を食べながらの打ち合わせ。

結果、肝臓を痛め半年間の入院生活。本人曰く、弟に会社を任せましたが、正直会社はダメになると思った。弟の秀夫氏は兄と性格が正反対、社内全員参加での会社運営。会社がダメになるどころか、社員のやる気を引き出し、かえって上手く回りだした。

兄岩男氏曰く、「入院して陣頭指揮が出来なくなっていて見えた。入院しないと一生気がつかなかったと思う。」もうひとつの眼が開いた。

この方を見て、ものの考え方と仕事に取り組む姿勢を学んだが、惜しいことにこの方も早くに亡くなった。

## 勲章を上げたい婦人

上野高校の正門から清水坂（通称暗闇坂）を下りはじめると、進行方向の左側が高い塀に囲まれた上野動物園の敷地になります。

ここを歩く時間は朝の 5 時前後となっておりますが、現在は上野動物園から自由に伸びた広葉樹が塀の上から道路に覆い被さり、誰もほとんど通らない薄暗い道を歩いていると動物園からいろいろな動物の声が聞こえてきます。このコースを選んで 20 年近くになっていると思いますが、上野高校の正門前から、薄暗い清水坂を下りて、上野動物園の通用門（裏門）まで 300～400m ぐらいの距離がある道路を、20 年以上前から毎日のように清掃するご婦人がおります。特に上野動物園側は年中葉を落としているので、何かの都合で掃除ができない日が続くと、いつもの綺麗な道路が荒んだように見えます。

私はいつもこのご婦人に「おはようございます。ご苦労さまです。」と声をかけます。しかし、清掃作業をしているこのご婦人は私

の方を見ようとはしません。口のなかで何かぶつぶつ言っているようですが、ほとんど聞こえません。ただいつもきちんとした身なりで掃除をしております。応対からすると、もしかしたら頭の方に少し障害があるのかな？ しかしこのようなことは誰でも出来ることではありません。

とくに上野動物園側は前述のとおり、高い木が塀の上から道路側へ出ており、夏の間も落葉を落とし続けております。これを早朝にご婦人が道路を掃除し片づけるのを日課にしていることを動物園の管理者は気づかないと思い、園長宛に手紙を出しました。事実関係を伝え、一度現場に行き確かめた上、褒めてやってください、と結びました。

後日園長からハガキで返事をいただきました。「上野動物園にはそのような方を表彰する規程はありません。」とのことでした。規程は誰が作るのでしょうか。血の通う生き物を扱う動物園の園長の言葉にしては、ちょっと寒い返事です。



※清水坂—台東区教育委員会がたてた坂標があり、以下の説明が書かれている。「坂近くに、弘法大師にちなむ清泉が湧いていたといわれ、坂名はそれに由来したらしい。坂上にあつた寛永寺の門を清水門と呼び、この付近を清水谷と称していた。かつては樹木繁茂し昼でも暗く、別名暗闇坂ともいう。」